

第17回若年者ものづくり競技大会「木材加工職種」への挑戦

兵庫県立西脇工業高等学校 総合技術科 教諭 小西 遼

1 はじめに

本校は木材加工職種について過去3大会連続出場している。このことについて生徒の取り組みを中心に紹介する。

2 学校紹介

創立61年目を迎える本校は日本の“へそ”兵庫県西脇市にあり、駅伝(全国優勝8回)の西脇工業として知られている。

機械科、電気科、総合技術科、ロボット工学科の4つの専門学科がある。

3 ものづくりへの取り組み

総合技術科では情報技術を中心に機械・電気・情報・環境など、工業の基礎的な内容を学習する。2年生から、機械技術、自動制御、情報技術、環境技術など、それぞれの専門分野の知識をより深く学習する。また、就職や進学の多様な進路に対応するため、2・3年生で選択科目を取り入れ、生徒の興味関心を活かした選択ができる。

4 木材加工職種について

木材加工職種では木製家具の製作の基礎である木を切る・削る・彫る・穴をあける・つなぐといった技術と技能を競う。また、課題には当日公表される寸法があり、対応する応用力に加えて課題の難易度が年々上がっているため、早く正確に作業する技術も必要とされる。日曜大工から卓越した技能まで親しみやすく奥深い世界である。

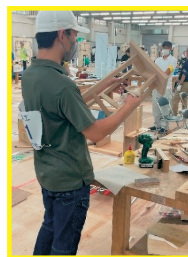


鋸の加工状況

5 活動・選手について

本生徒は、幼少の頃より木工細工、ものづくり

に興味を示して高校入学後、手先の器用さを活かして1年生で家具技能検定3級に合格、さらに2年生で3級大工技能検定に合格した。また、前年度の大会へ出場したが、惜しくも入賞ならず高校生活の最後になる本大会にかけける思いは強くなり練習にも熱が入った。保護者等の協力もあり、練習材料である木材(タモ)11個分を使用して練習に励んだ。本大会で必ず日本一になるぞという意気込みで臨み、見事日本一(金賞/厚生労働大臣賞)の栄冠に輝いた。



鉋の加工状況



作品と受賞物

6 生徒の感想

2年生で本大会に出場したこともあり、高校最後の大会の目標は、前回よりもいい結果を残すことだった。そのために、前年の練習方法を見直して、部分練習で苦手なところを克服して得意な加工は時間を短縮するなど工夫した。2回目の大会ということもあり、あまり緊張せずに加工に集中できたのはよかった。練習でのミスも本番ではほとんど無く、練習も合わせた過去の作品の中で最も綺麗に作ることができた。自分でも予想していなかった金賞という結果には正直驚いたが、自分の技術が今までよりも高くなっていることを実感できた。設備や練習材料といった環境が充分でない中、教えていただいた先生、練習のための費用を負担してくれた家族、応援してくれた周りの人たちに感謝している。さらに技術を磨いて多くの人に幸せを届けることができる職人になりたい。